

## お知らせ

### 3号機補助ボイラー運転時間超過などについて 原子力安全・保安院より指示文書を受領しました

当社は、先月、1号機高圧注水系が動作可能であることを満足できなかった件、および3号機補助ボイラーの運転時間超過などにつきまして、原子力安全・保安院より、根本原因の究明および再発防止対策の策定を行うとともに、組織的な共通要因を踏まえた全社的な対応策を策定するように指示をいただきました。

#### ●1号機高圧注水系が動作可能であることを満足できなかった件について

<概要> 1号機は7月15日、原子炉運転中に毎月1回定期的実施する高圧注水系<sup>※1</sup> 手動起動試験を実施したところ警報が発生し、高圧注水系が動作可能であることが確認できませんでした。

<原因> 原因を調査した結果、6月に補修等のため原子炉を停止した後、再び原子炉を起動する前に、解除すべき信号を解除していなかったことが原因と判明しました。当該信号が発信されていることを示すランプが球切れにより消灯していたため、解除操作が行われなかったものです。

その後、当該信号を解除した上で高圧注水系の定期試験を実施し、同日高圧注水系が動作可能であることを確認しております。

※1：高圧注水系とは非常用炉心冷却系の一部で、非常時に原子炉に給水するための設備です。

#### ●3号機補助ボイラーの運転時間超過について

<概要> 3号機補助ボイラー<sup>※2</sup> (A)について、定期事業者検査<sup>※3</sup>を開始しなければならぬ運転時間を超過していることが7月27日に判明したため、同日当該補助ボイラーを停止し、直ちに定期事業者検査を開始しました。

今後運転時間を超過した原因について調査し、再発防止対策を講じることとしております。

※2：補助ボイラーは、発電所建屋内の暖房等に使用する蒸気やプラント起動時のタービン軸封部へのシール蒸気を供給するためのボイラーです。

※3：定期事業者検査は、電気事業法に基づき事業者（当社）が実施する検査です。

当社はこれまで、火災やトラブルに対応し、再発防止対策を定め全力で取り組んで参りましたが、さらに一層強力に取り組んで行く必要があると考えております。

このため、次の3点を柱として、社内外の幅広い視点からアドバイスをいただきながら取り組み、今後とも原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

1. 社内外の幅広い視点からの対策検討
2. 再発防止対策推進特別チームの設置
3. 外部専門家による会議の設置

## トピックス

### 女川原子力発電所構内特別安全大会を開催しました

7月8日、発電所構内の体育館において、女川原子力発電所構内特別安全大会を開催し、発電所職員と協力企業社員合わせて約1,000名が参加しました。

本大会では、安全に関する訓話、参加者代表による決意表明、参加者全員での全国安全週間スローガン唱和などを行い、発電所内のゼロ災害達成に向けて決意を新たにしました。



▲発電所で働く者が一堂に会してゼロ災害達成を誓いあいました

#### 【発電所の運転状況（8月1日現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	運転中	順調に運転しています
2号機	定期検査中	第10回定期検査中です
3号機	調整運転中	8月1日に発電を再開しました

トピックス

3号機のプルサーマル計画についてご説明させていただく  
訪問活動を石巻市内で開始しました

3号機のプルサーマル計画について更なるご理解をいただくため、石巻市内にお住まいの皆さまのお宅を訪問してご説明させていただき取組みを7月13日から開始しました。

今回は、すでに5月に訪問した牡鹿半島部を除く、約58,000世帯を対象に、8月末までの予定で訪問させていただいております（土日やお盆時期は除きます）。

また、地区ごとの住民説明会についても9月中旬までの予定で順次開催しております。

当社はプルサーマルについて、地域の皆さまのご理解をいただけるよう誠心誠意努めてまいります。



▲一軒一軒地域の皆さまのお宅を訪問させていただき、ご説明しております

ふれあい

女川みなと祭りに当社からも参加しました

女川町にて7月25、26日開催された「女川みなと祭り」に、発電所職員約60名が参加しました。

当発電所では、例年どおり海岸駐車場にて麦茶と風船の無料サービスを行ったほか、コガ漕ぎ、パレードなどにも参加し、地域の皆さまと一緒にお祭りを盛り上げました。



▲麦茶と風船のサービスは多くの皆さまにご利用いただきました

\* 世界各国の発電方式の組み合わせ方について \*

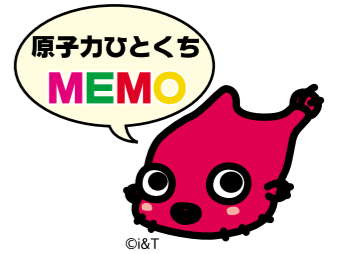
世界各国では、その国のエネルギー事情に応じて、発電方式の組み合わせ方が異なります。

国内に大規模な炭田があるアメリカや中国は、電源に石炭を使う割合が高くなっています。

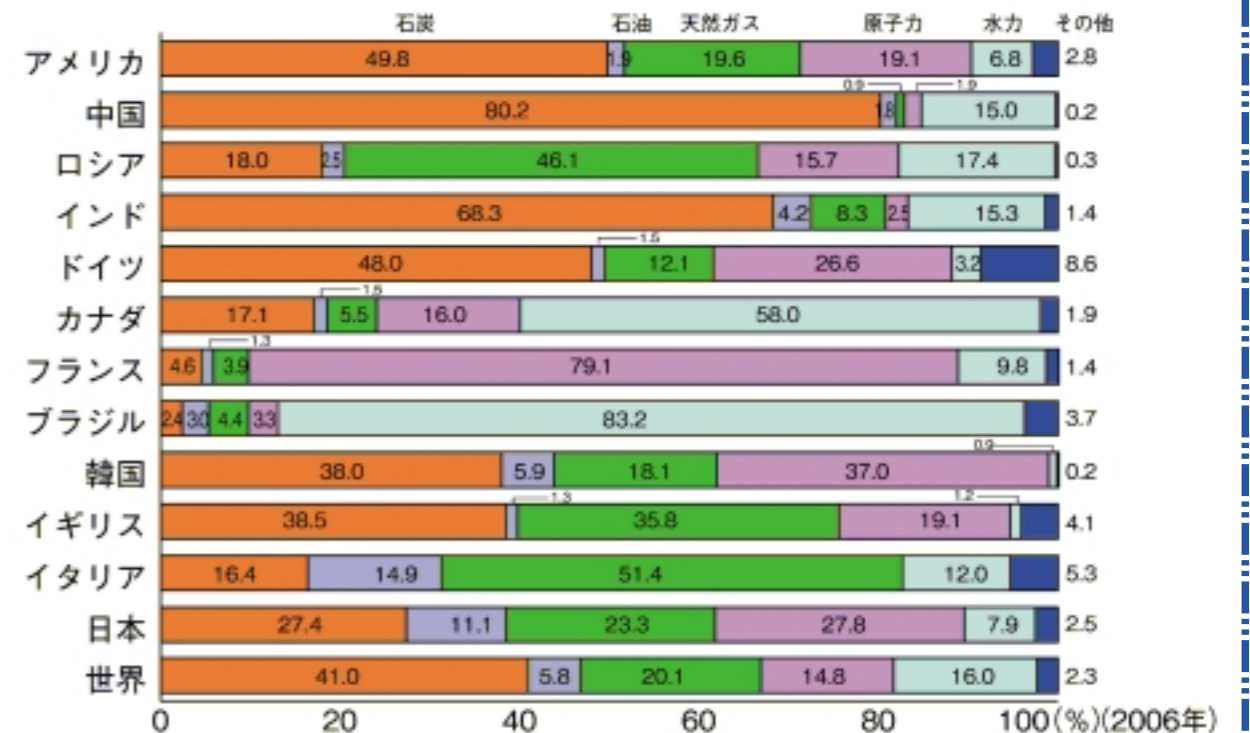
また、天然ガスの産出量が多いロシアは、電源に天然ガスを使う割合が高くなっています。

一方、石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料資源を持たないフランスは、積極的に原子力発電を進めています。

日本では、地球温暖化問題への対応、安定供給やコストの観点からバランスのとれた電源構成（ベストミックス）を目指しています。



主要国の電源別発電電力量の構成比



(注) 四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

出典：「原子力・エネルギー」図面集2009